



ケガの原因5：誤って飲み込む

～「高齢者」と「乳幼児」で多く発生しています～

1 実際の事故事例

高齢者 【65歳以上】

- 食べ物（もち、肉、パン、あめ、ゼリー等）が喉につまった
- 薬の包装を誤って飲み込んだ
- 入れ歯を誤って飲み込んだ

大人 【18歳～65歳未満】

- 食べ物（もち、そば等）が喉につまった

子ども 【7歳～18歳未満】

- 食べ物（お煎餅）が喉につまった

乳幼児等【0歳～7歳未満】

- 食べ物（お煎餅、あめ等）が喉につまった
- ボタン電池を飲み込んだ
- タバコを飲み込んだ
- 消しゴムを飲み込んだ
- 小さなおもちゃを飲み込んだ
- 輪ゴムを飲み込んだ
- ホチキスの針を飲み込んだ
- 1円玉を飲み込んだ
- 漂白剤を飲み込んだ
- トイレの洗浄剤を飲み込んだ

2 予防と対策

☆もちなどは大きさに注意

- 食べ物で喉につまる事故は、多く発生しています。つまらないように小さく切りましょう。

☆整理整頓しましょう

- 小さなお子さんは、自分の周りのものに興味を示しますが、危険を予知することはできません。口に入るような大きさのおもちゃ、ボタン電池などは、手に届くところには置かないよう、安全に配慮しましょう。

「喉に物がつまった」場合は、窒息により息が出来なくなり、重大な事故につながる可能性があります。応急手当が必要な場合があるため、応急手当を身につけましょう！

「予防救急」を始めましょう